

J A利根沼田管内昭和村

「晩抽サマーヒミツ」の

収穫、調製作業のしやすさが省力化に貢献

(編集部)



↑左からタキイ茨城研究農場 神田拓也技師、JA全農ぐんま生産資材部 鈴木優夫課長、塚本清さん、JA利根沼田南部支店営農経済課 石井駿輝さん、関東支店 新井真琴担当。

J A利根沼田管内の ホウレンソウの状況

J A利根沼田のホウレンソウの栽培面積は系統出荷で約300ha、年間出荷量は約4450tあります。農業法人による出荷も多いため、昭和村全体では農協出荷と合わせて700ha以上になります。ハウス100棟以上をもつ大規模法人から家族経営までさまざまな規模があるのが特徴です。

群馬県のホウレンソウは県の重点品目として2020年には出荷量日本一となり、昭和村は太田市と並んでホウレンソウの出荷量が多い地域です。J A利根沼田営農畜産部生産資材課課長代理の塚本研二さんによると「ホウレンソウの値段は他の品目と比べて年間で見ると比較的安定している」品目のため作付け面積が年々増え、レタスの

後作やトマトなどからの品目変更をする人もいるとのこと。

昭和村周辺は利根川や片品川周辺付近から赤城山麓付近まで標高差があり、場所によって気温が2〜3℃変わることで経営形態が人によって異なるため、品種選定も人によって違うことが当地域の特徴ということでした。

家族経営で ホウレンソウを周年栽培

今回取材したのは、農業を始めて30年という塚本清さんご一家。実は塚本研二さんのご実家でもあります。去年から家業を継ぐために就農した長男の雅彦さんと奥さんのふじ江さんの3人による家族経営です。

ホウレンソウを周年栽培するほか、スイートコーン1・2haを栽培。ホウ

地域概要

J A利根沼田管内の昭和村は赤城山の北西麓に広がり、周辺を日本百名山に選ばれている2,000m級の武尊、谷川連峰、榛名山などに囲まれています。標高300~1,000mまでの準高冷地帯で、夏と冬・昼と夜の温度差と広大な耕地を活用し、特産のコンニャクのほかレタス、ホウレンソウの栽培が盛んです。県内・京浜地域の台所としても重要な役割を果たしています。



レンソウは8月中旬播種〜12月末まで出荷、2月播種〜6月ごろまで出荷する露地栽培と、5月中下旬播種からはじまるハウス栽培があります。

夏の作型となるハウス栽培は約30aのハウス17棟で3回転するため2日おきに播種し、32〜33日程度で生育の状況を見て収穫します。朝5時から朝食を挟んで10時まで収穫したあとすぐに予冷庫で保管し、その後ふじ江さんと雅彦さんで調製作業を担当されます。



↑ 雅彦さんが下葉取り専用の調製機械にホウレンソウをセットし、ふじ江さんが1袋約200gになるよう株数を決め袋詰めする。



一貫した省力化に「晩抽サマーヒット」が貢献

今年5月下旬から4回の播種期で試験。暑さが発芽に影響し始める時期、塚本さんは「発芽そろいや初期生育はよい」と、5月下旬まで発芽そろいが安定していると評価いただきました。収穫作業では草姿が立性で葉軸が折れにくい、株元を確認しやすく作業がはかどることが有利な点でした。台車に腰かけて毎日行う収穫作業の負担軽減につながっています。

出荷調製作業においても下葉取り機の使用、特に下葉2枚が機械で落ちてしまう以外は調製作業に手間がかからないことが、「晩抽サマーヒット」のよさだということでした。また、葉軸の付き方と下葉2枚目と3枚目の大きさ



↑ 収穫がしやすい立性草姿。



↑ 左：調製前、右：調製後の「晩抽サマーヒット」。調製後は下葉2枚が取れ、軸折れも少ないため調製作業の効率が良い。

が明らかに違うことで取り除く葉の境目が分かりやすい点も調製のしやすさにつながっているようです。このように発芽そろいから収穫、調製、出荷時の作業性のよさに至るまで、「晩抽サマーヒット」が毎日続く一連の農作業の省力化につながっていたことは間違いありません。

先述の通り、当地では塚本さんのような家族経営から大規模法人まで、さらにハウスの回転率重視の方から在圃性重視の方までさまざまな経営規模や収穫体系が存在します。「晩抽サマーヒット」のもつ作業性のよさはどちらのスタイルにも省力化の点で必要不可欠な要素だと感じました。

当地での適作型を探る

耐暑性のある「晩抽サマーヒット」で

すが、当地では梅雨時期に葉の伸びに對してやや株張り不足傾向になります。塚本さんはさらなる収量性向上を目指し、今年「晩抽サマーヒット」のほかにもより株張りのよい品種も試作されています。春先の4月下旬～5月上旬まきの露地、5月中旬のハウスのはじめまでは伸びのよい「晩抽サマーヒット」を使用し、梅雨時期の5月中旬～6月中旬まきは株張りにすぐれる試験品種が適すると考えられています。

そして、6月下旬まきからは再び伸びのよい「晩抽サマーヒット」を使用し、品種を使い分けることで収量性も十分に確保できると検討中です。

当地のホウレンソウ生産現場において「晩抽サマーヒット」が、省力化と収益性アップにつながることを期待しています。



↑ 塚本さんと神田技師、新井担当を交えて塚本さんの収穫体系に合った作型を探っていく。